

第1号様式(第5条関係)

令和3年度 指定管理者年度総合評価表

作成年月日	令和4年7月1日
-------	----------

1 指定管理者概要

施設名	野付半島ネイチャーセンター		
所在地	別海町尾岱沼野付63番地		
施設概要	1階:事務所、売店、レストラン、トイレ(男子、女子、多目的) 2階:ギャラリー、展示コーナー、展望デッキ その他:設備等、駐車場、トドワラ休憩所公衆トイレ、 野付竜神崎公衆トイレ、トドワラ公衆トイレ		
指定管理者	名称	株式会社別海町観光開発公社	
	代表者	曾根 興三	
	所在地	別海町野付63番地	
指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日		
指定管理者の業務	施設及び設備の保守点検・修繕に関する業務、施設の清掃及び環境保全に関する業務、外構等の管理に関する業務、施設警備及び防火管理に関する業務、備品類の管理に関する業務		
町の所管課	産業振興部商工観光課		
	電話	0153-75-2111(内線 1621)	
	E-mail	syoukou@betsukai.jp	

2 指定管理者による自己評価

評価	新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け緊急事態宣言により当施設も閉館を余儀なくされましたが、集客率向上に向けて夏のガイドツアーや冬の氷下待ち網漁体験ツアーに重点を置きにぎわい商店街創造事業のお力添えをいただいたおかげで、前年に比べ倍以上の集客がありました。地域活性化に繋がる事業展開を考えていきたいと思っております。
今後について	新型コロナウイルスによる感染拡大が落ち着いてきてますが、感染予防対策はしっかりと行っていききたいと思います。また、レストランは空気清浄機導入とこまめな換気とともに密を防ぐ様心掛けたレイアウトにしていきます。

3 町(所管課)の総合評価

評価	施設の設置目的を踏まえ、関係法令等を遵守し適切に運営を行っていた。定期的な環境整備や清掃を行うなど維持管理がされていた。コロナ禍の状況で集客向上に向け補助金等の積極的な活用も見られた。
指摘事項	設備等の経年劣化が進んでいるため、修繕が必要な場合は、規模に応じて所管課と協議の上、計画的な対応を行うこと。

4 管理運営状況に係る個別評価

評価欄への記入内容 ◎： 町が示した条件や内容を上回る水準で管理運営されていた ○： 町が示した条件や内容が概ね達成されていた ×： 町が示した条件や内容が達成されていなかった 特記事項への記入内容 特記事項への記入内容は、評価が◎又は×となった項目についてのみ記載

(1)管理・運営状況

指標	評価	特記事項
開館日、開館時間の状況	○	
法令の遵守の状況	○	
適正な人員配置状況	○	
従業員の労務環境確保の状況	○	
障がい者の雇用状況(該当がある場合)	—	該当なし
従業員への教育・研修状況	○	
緊急事態への対応状況	○	
書類等の管理保存状況	○	
報告書の提出状況	○	
利用料金の取扱状況(該当ある場合)	—	事例なし
利用料金の減免状況(該当ある場合)	—	事例なし
口座管理、経理の区分状況	○	
管理物件に対する損害賠償、第三者への賠償状況	—	事例なし
付保する保険(保険加入を指定している場合)の状況	○	
重要事項の変更の届出状況	—	事例なし
施設の使用許可及び使用条件等の状況	—	事例なし
施設、設備の保守管理状況	○	
備品の管理状況	○	
清掃業務、保安業務、その他必要な衛生管理業務等の状況	◎	定期的な清掃により、適切に管理を行っていた。
自主事業の状況(選定時に提案があった場合のみ必須)	○	
環境への配慮(町から事前に条件を示している場合のみ必須)	○	

苦情・要望等の受入体制確保の状況	○	
苦情・要望等への対応状況	○	

5 他の事業評価実施状況

(1)セルフモニタリング

自主点検状況	施設の老朽化に伴い、故障箇所や破損箇所が徐々に始まっておりますので修繕するなどの対策が必要です。
--------	--

(2)定期モニタリング

定期報告状況	セルフモニタリングシートが遅滞なく提出され、内容も適切であった。
--------	----------------------------------

(3)随時モニタリング

実地調査状況	実施回数	実施日	実施者	実施内容
	6回	6月10日	長尾	施設状況確認
		7月15日	長尾	施設状況確認
		10月8日	長尾	施設状況確認
		1月19日	長尾	施設状況確認
		2月18日	長尾	施設状況確認
		2月28日	長尾	施設状況確認
	実施結果			
	建物及び設備の破損等がある場合は、適切に報告・修繕等の対応をした。			

(4)その他の状況

指定管理業務に関する財務状況 (計画と実績の状況)	昨年は、コロナの影響で夏場の入込数は苦戦しましたが、冬の氷平線が下支えとなり計画は下回ったものの昨年を上回る実績を上げることが出来ました。
その他の取組状況 (運営に関する工夫)	フェイスブックなどを利用した情報発信や、メディアに取り上げてもらう等認知度の拡大を目指し観光客の増加を図りたいです。